様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：２２７０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ１９５３１

研究課題名（和文）医療施設における看護の質を向上させる看護師のフォロワーシップ

研究課題名（英文）Nurses' followership style to improve the quality of nursing in hospitals

研究代表者
大山　裕美子（OYAMA, Yumiko）

横浜市立大学・医学部・准教授

研究者番号：９０７３６３４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、医療施設における看護師のフォロワーシップスタイルと看護・医療の質指標の関連を検証した。その結果、模範的フォロワーシップのスタイルをもつことで、感染防止行動の遵守がより行われていることなど、医療の質指標を向上させる可能性があることが示唆された。同時に、信頼性のあるフォロワーシップの定量的測定が重要であることも明らかになったため、reliability generalization meta analysisを実施したが、信頼性の検証を行う上で必要な数値の報告が十分に行われておらず、結論を導くことはできなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
保健医療従事者の少なくとも80%は主にフォロワーに位置付けられるポジションにあり、組織が上手く機能し良いアウトカムを得られるかどうかは、良いフォロワーを育成することが重要である。また、臨床での医療の質にはフォロワーシップがどのように取られているのかが大きく影響する可能性があることが指摘されており、医療従事者フォロワーシップを育成することは組織だけではなく患者にとっても重要である。今回、本研究を実施したことで、その重要性の科学的裏付けを提示できたフォロワーシップの測定方法の現状と課題を明らかにしたことは、今後フォロワーシップ育成の効果的なプログラムを構築していくうえで意義がある。

研究成果の概要（英文）：We examined the relationship between the followership style of nurses in hospitals and the quality indicators of nursing care. The results suggested that having an exemplary followership style may improve quality indicators of nursing care, including better adherence to infection control behavior. We also determined that reliable measurements of nurses' followership style was important, the we conducted a reliability generalization meta-analysis. However, the numerical values necessary for verifying the reliability were not sufficiently reported, and no conclusion could be drawn.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護の質　クオリティ・マネジメント　組織アウトカム　フォロワーシップ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

わが国の保健医療システムがチーム医療の推進や地域包括ケアシステムの実現という大きな転換期を迎えている中で、看護師はそのキーパーソンとして位置づけられており、看護師のマネジメント力が重要視されている。看護師のマネジメント力において特に注目が高く、これまで多くの研究がなされてきたのがリーダーシップである。しかし、保健医療従事者の少なくとも 80%は主にフォロワーに位置づけられるポジションにあり、誰一人としてリーダー役割のみの者はいないことから、組織が上手く機能し良いアウトカムを得られるかどうかはフォロワーに影響を受けていると考えられている。

フォロワーがリーダーや組織に対して行う「リーダーへの自律的支援」や「組織への主体的貢献」といった、フォロワーのフォローするプロセスやエンゲージメントの程度による行動への影響の度合いを表したものを「フォロワーシップ」という。臨床での看護の質には、このフォロワーシップがどのように取られているのか（フォロワーシップスタイル）が大きく影響することが少しずつ明らかになり始めている。

フォロワーシップスタイルの中でも、独自のクリティカルシンキングを持ち、組織やリーダーの目標に関与できるフォロワーシップスタイルを持つ者を模範的フォロワーといい、経営学の分野においては、組織にとって最も望ましいフォロワーと考えられている。しかし、フォロワーシップスタイルや模範的フォロワーに関する研究は看護学を含む保健医療分野ではまだほとんど実施されていない。

フォロワーシップスタイルの形成は専門職教育課程の頃から始まっていると言われていることから、看護師の効果的なフォロワーシップを早期より育成・強化することは組織だけではなく患者にとっても重要である。

２．研究の目的

本研究では、「医療施設における看護の質を向上させる看護師のフォロワーシップとは何か、またその育成をどのように行っていくのが望ましいか」を検証していくことを目的とした。

３．研究の方法

当初計画していた研究のステップと方法は、第１段階として医療の文脈における「フォロワーシップ」の定義を明らかにするために概念分析を実施すること、次に第２段階として明らかになった定義を踏まえ、医療施設においてフォロワーシップの教育がどの程度実施されているのかの実態調査、第３段階としてフォロワーシップの尺度の測定の信頼性の検証、そして最終段階として実際の看護師のフォロワーシップスタイルと看護の質指標との関連性の検証を実施することであった。しかし、研究開始後より COVID-19 のパンデミックが起きたため、計画を大幅に変更し、医療従事者のフォロワーシップと組織アウトカムに関する研究を概説することを目的とし、第１段階として文献レビューを実施した。次に第 2 段階として、フォロワーシップスタイルの尺度レビューを実施し、第 3 段階として、第 2 段階の結果を踏まえた、reliability generalization meta analysis（RGMA）を実施した。

４．研究成果

医療従事者のフォロワーシップと組織アウトカムに関して、英文文献データベース 3 つ（PubMed, CINAHL, BSC)、和文論文データベース１つ（医中誌）の計 4 つのデータベースを用いて、和文・英文論文を対象とした文献レビューを実施した。最終的な分析対象となったものは 5 件のみであり、保健医療の分野ではフォロワー シップに関する研究はあまり実施されていないことが明らかとなった。これらの研究のうち、医療の質指標との関連を報告していたものは Greene ら（2016）の 1 件であり、CAUTI（カテーテル関連尿路感染）の予防行動の遵守率というプロセス指標との関連を報告したものであった。当該研究では、模範的フォロワーはそうでない者に比べて 3 倍遵守する傾向にあり、それ以外の感染予防行動も、より遵守している傾向にあることが報告されていた。その他の 3 件は、組織アウトカムである、職務満足度（Gatti ら, 2017)、バーンアウト（Craford ら, 2014)、安全文化の醸成（Beebe, 2013）との関連性を検証したものであった。これらの研究では、模範的フォロワーでは、そうでない者と比較し、より職務満足度が高い傾向にあること、バーンアウトは低い傾向にあること、そして安全文化がより醸成されている傾向にあることが報告されていた。以上より、模範的フォロワーのフォロワーシップスタイルをもつことは、保健医療の文脈においても組織アウトカム、さらには医療の質指標を向上させる可能性があることが示唆された。

同時に、フォロワーシップを向上させる効果的な介入を開発するうえでは、フォロワーシップスタイルの頑健な定量的測定を実施できることが重要であることも明らかとなった。そのため、次の段階として、フォロワーシップスタイルの測定尺度を概説するための尺度レビューを実施した。第 2 段階と同様のデータベースを用い、現存するフォロワーシップ測定尺度を調査したところ、国内外ともに 1993 年に開発された Kelly のフォロワーシップの定義に基づく尺度（以下、Kellys’尺度）が用いられた研究と研究者の自作による定量

的測定に大別された。しかし、後者は測定の信頼性や妥当性は十分に検証されておらず、結果の比較も困難であった。一方で前者は、国内外の様々な状況で測定が実施されていた。この結果を踏まえ、第3段階として、Kellys’尺度が、適用された集団やセッティングの変動にどれだけ頑健な測定ができているのかを明らかにするために、RGMAを実施した。その結果、信頼性の検証を行う上で必要な数値の報告が十分に行われておらず、信頼性に関して結論を導くことはできなかった。

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関